

生産性向上のカギは日本語検定

株式会社インターサーブ
管理部 浅野 麻耶 氏

当社は、経営、業務改善、システムのコンサルティングや、その内容に基づくシステム開発やクラウドサービスの提供、そしてアフターサポートまでを含めた総合的な業務改善支援を行っています。

社内では、コンサルティング業務やサポートなどで、お客様と直接お話しする機会のある社員はもちろん、システムの開発を担当しているエンジニアも含め、全社員の日本語力向上が、数年前から課題となっていました。

お客様とお話しをする際に、その内容がどんなに素晴らしくとも、正確に分かりやすく伝える日本語力がなければ、間違った情報が伝わってしまったり、誤解が生じてしまったりと、お客様にご迷惑をおかけすることになりかねません。

また、普段お客様と接する機会がない社員であっても、チームで仕事を進めることが基本となっている当社では、メンバー同士での話し合いや情報共有の機会が多いことから、日本語力を向上させることで、社内でのコミュニケーションがより円滑になり、生産性の向上にも寄与すると考えています。

通常業務の中で、メールの文章や電話での言葉遣い、会議での発言等の日本語がおかしいと指摘を受ける社員も少なくないため、「日本語力を上げなければ」と感じていた社員は多くおりました。しかしながら、「一体何から始めれば良いのか」「どのように学習したら良いのだろう」と悩んでいた社員がほとんどで、実際に自ら何か取り組みを始めていた社員はほとんどいなかったと思います。

そんな中、社員全員が日本語検定を受検することとなり、全社で受検に向けて取り組みを行ってまいりました。「日本語力を上げなければ」と思っても、何から始めれば良いのか分からないと感じていた多くの社員にとって、日本語を学習する良い機会になったのと同時に、検定の結果を見て、自身の弱点を知ることでもでき、その後の学習のヒントにもなったのではないかと感じています。

受検日当日は、普段とは異なるピンと張りつめた空気の中で、全員が真剣に問題と向き合っていました。社員からは「予想以上に難しかった」という声や、「漢字が書けなかった」といった声が多く聞かれました。特に漢字に関しては、パソコンやスマートフォンを使う機会が増えたせいか、苦労している社員が多かったようです。

昨今、英語教育が早期化されるなど、グローバル化に伴って外国語に注目が集まるようになってきていますが、日本で暮らしている以上、通常は日本語を使うことの方が圧倒的に多いはずで、日本語検定を受検することで、日本語の奥深さや、正しい日本語を知り、使えることの大切さを実感できると思います。

